

今月の畜産物市況

牛枝肉・豚枝肉・鶏卵・食鶏

牛枝肉

軟調！

11月以降産地では例年より肉牛の換金売りが多いのと年末出荷が集中し、加えて今夏北海道が冷害にみまわれたため乳牛の換金売りが増えて、一段と入荷が多く値上りを示してきている。

一方消費面については、近年にない不景気風が吹きあれ、消費不振に入り込んでしまい、年末の入荷が一部は枝肉のまま年始にもちこまれる等、1月に入っても業者の買気不十分で値下りし、下旬以降ややもち直すものと予想される。

豚枝肉

軟調！

春以降、順調な枝肉相場を保ってきたが、オリンピック需要が不発に終わってからは、相場はやや値下りを示した。12月に入ってから、加工筋の引合はあったが、一部業者には先行き不安から買い控えたため、相場にあまり繁栄が見られなかった。

また、農林省の調査では1月以降の肉豚出荷予想頭数は、対前年比約3割増と予想されていると共に、産地の増産体制も軌道に乗っており、反対に消費面ではこの不景気のため需要不振もはなはだしい。そのため1月相場はジリ安歩調はどうにもならない状態である。

鶏卵

値下りまぬがれず

オリンピックの特需ブームに期待をかけて、各県共に飼養羽数は一段と増加したため、今年の春以降の鶏卵価格は低迷を続けた。12月に入ってからクリスマス用加工向けの大口買付けと年末需要のため、価格は漸次上昇を示した。

しかし、年明け後の相場は、例年あまり期待出来

ないのが通例となっている。これは暮れ需要と称するものの中に年始用の手当てもかなり含まれ、また一般家庭では冷蔵庫の普及もあって年末に買いだめし、年始めは出費をさけることなどさらに寒冷地では生産された卵の保存がきかず市場出荷を急ぐ等で入荷が需要を上廻り、1月上、中旬は値下りをまぬがれないが下旬以降やや持直すか。

食鶏

維持しよう

年明けとともに出費の差控えから、需要はとまっているが、入荷のほうもそんなに伸びるとは思えないので、値崩れすることはないであろう。それで、ここ当分のあいだは大ビナで、200円台は維持できるとみられる

輸入ものの冷凍チキンでは味がおちるので、一般家庭用にはたいした影響を与えないであろう。